

議会報告会 報告書

彦根市議会議長 西川 正義 様

議会報告会 企画総務消防班

報告者 奥野 嘉己

開催日時	平成 29 年 2 月 21 日 (火) 19 時 00 分～20 時 40 分
開催場所	南地区公民館 会議室
出席議員	議員氏名(役割) 小川喜三郎(司会) 安居正倫(開会挨拶) 夏川嘉一郎(閉会挨拶、会場案内) 矢吹安子(第一部報告者、会場案内) 野村博雄(第二部報告者、受付) 獅山向洋(受付) 長崎任男(会場案内) 奥野嘉己(会場案内、事後報告書作成)
参加者数	17 人
内 容 (内容及び時間配分)	(1) 開会 3 分 (HP, 広報等への掲載、報道提供の説明を実施) (2) 開会挨拶 3 分 (3) 議員紹介、資料確認、進行内容の説明 10 分 (4) 第一部 主要事業の報告 30 分 ・第 79 回国民体育大会および新市民体育センター整備について ・国宝・彦根城築城 410 年祭について ・平成 29 年 NHK 大河ドラマ「おんな城主 直虎」を核とした観光振興について ・稲枝駅整備および西口開発について ・彦根城世界遺産登録推進事業について ・認定こども園について (5) 第一部 質疑応答 10 分 (6) 第二部 「防災のまちづくりについて」 報告と意見交換 30 分 (7) 閉会挨拶 3 分 (8) アンケート記入 5 分

主な質疑応答、

議会への意見

第一部の質疑応答

Q：彦根城への入山者数について、410年祭は90万人を目標としているとのことであるが、もし未達成の場合の市長の責任について議会としての見解は？

A：例年の入山者数実績を基に考えると、期間中に大河ドラマや410年祭に関連する諸施策の効果があり目標達成は可能と感じています。

Q：今回の主要事業の説明の中に、福祉関連の説明がない。少子高齢化の状況下、国体関連などの大きな事業の話は聞くけれど、次代を背負う子ども、次世代への施策を望む。

A：・福祉施策も議論を行っている。また国体関連で、新市民体育センターの説明を行ったが、老若男女を問わず、健康生活、体づくりがポイントであり、少子高齢化の中でこそ、スポーツ施策が大事であるとの意見もあります。
・また大きな建物を建てればそれで終わりということでもなく、使い勝手も含めて今後、特別委員会の中で議論をしていきます。

・少子高齢化の中、大きな投資は将来に負担となると意識しており、無駄なものは作らない方向で努力をします。

Q：給食費の公費負担に関するコメントを

A：子育て世代の負担軽減に向け、小学校3年までですが、通院費に関して公費負担を実施することになりました。給食費や通院費などの全体を見て負担軽減を目指す方向で、議論を進めています。

Q：認定こども園については入園定員が大きく、広範囲からの通園を想定しているとすると、共働き世帯、貧困世帯にとっては負担となるのではないのか。さらに年寄り世代への投資を減らし、今後を担う子ども世代へ投資を振り向けるべきではないのか。さらには企業誘致を頑張ってもらいたい。

A：・若者に魅力のある街を作るべく、まち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し進めているところです。現状においては、企業誘致はかなり難しい状況となっています。既に市内に所在されている例えばブリヂストンさんのように、事業の好調によって拡充をされて人員増となっている例があります。

・高齢者の増加もあり高齢者福祉に関してはまだまだ支援は必要です。

第二部の意見交換

・先日の大雪に際し、高齢化、人口減の地区での除雪は困難を極めた。地域の自助はそのとおりだが、若者は出勤第一であり、結果としてどうにもならず。

・自主防災組織リーダー研修に参加したが、阪神淡路大震災の際の共助が多かったのは、単に、人口が多くて助け合えたからと聞いた。

	<p>我々の地域では難しい。まずは自助が大事であり、家の中の家具の固定などできることをすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年寄りには消防団には参加することは体力面などで難しいが、操作を教えてもらったら、緊急時には自助でできるのではないだろうか。 ・各集落で、自主防災セミナーの開催義務化が必要ではないだろうか。 ・自主防災組織の実態がはっきりとしない。単に、補助を申請するときの名前だけで組織しているのではないのか。 自治会と防災組織の違い、役割を明確にする必要は無いだろうか。 ・高齢者人材バンクの設置、活用を。
<p>市への要望</p>	<p>「主な質疑応答、議会への意見」に「市への要望」も含み、記載しております。</p>